

【主催：津島市】

## 津島市総合戦略策定にむけたユース世代未来創造ワークショップ 『20年後も住み続けたくなる未来の津島を創造する』 開催結果報告

## 【実施概要】

- 日時 平成27年8月7日（金）  
13:30～16:30
- 会場 児童科学館 2階 展示ロビー
- 参加者 津島市内在学の中学生9名  
高校生21名 計30名



## 【開催結果】

## ■開会

はじめに、主催者を代表して津島市市長公室企画政策課の安井課長よりあいさつし、「中高生のみなさんの自由な発想で、ぜひ津島の魅力的な将来像を提案してほしい」とのお願いをしました。その後、事務局より本日の趣旨及びプログラムをご説明しました。

## ■ウォーミングアップ

受付の際、参加者には、学年や性別などのバランスを考慮して事務局が作成したAからDまでの4つのグループをお伝えし、該当するグループに分かれて座ってもらいました。

開会あいさつ後に、まずはウォーミングアップをかねて、グループ内で自己紹介を行いました。お名前・お住まい・ご所属とともに、津島市の「強み（好きな点、魅力的な点）」と「弱み（嫌いな点、改善したい点）」について一言ずつ紹介しあい、お互いのことを知り合いました。強みとして、津島祭や古い街並みなどの歴史・文化が残っていることや、自然が豊かに残っていることなどがあげられていました。

## ■話題提供&amp;ミニレクチャー

グループでの話し合いに先立ち、まずは事務局からの話題提供として、津島市の最近の人口の変化とともに、今後は人口減少が懸念されることを統計データなどからご紹介しました。

さらに、津島市総合戦略策定委員会の会長とともに本ワークショップのアドバイザーもお願いしている名古屋学院大学の江口忍 教授から、これから津島市に住む人（定住人口）や遊びに来る人（交流人口）を増やすために、今後の津島市を取り巻く「少子高齢化」や「リニア新幹線開通」などの状況の変化を意識すること、そして魅力ある都市をつくるために津島市の強みを生かした戦略を描くことの重要性についてアドバイスを頂きました。参加された学生さんは、聞きなれない難しい言葉もありましたが、とても真剣な表情で江口先生の話聞いていました。



## ■グループトーク

ミニレクチャーのアドバイスを踏まえて、グループごとに話し合いを行いました。テーマは『20年後も住み続けたくなる未来の津島を創造する』。参加している学生のみなさんが大人になっても住み続けたくなるような理想の津島市の「まちの姿」と、そこでの「暮らし」について、住む・働く・遊ぶ・子育て・地域活動などの様々な生活の場面について、写真やイラストなどを用いながら具体的なイメージを考えてみました。

どのグループも、高校生が的確にリードするとともに、中学生も積極的に意見を述べる様子が見られました。約90分間という限られた時間の中で、お茶やお菓子を楽しみながら、学校や学年をこえてわきあいあいと活発に議論が行われました。



提案のとりまとめ作業では、事務局が用意した写真だけでなく、雑誌からイメージにあった人や風景、食事、活動の様子などの写真やイラストを切り抜いて貼りつけるなど、とても賑やかで楽しい成果物が仕上がりました。最後にグループのタイトルとメンバー氏名を入れて完成しました。A～Dまでの主な提案内容は以下のとおりです。

<p><b>A</b> グループ</p>	<p><b>「老若男女が楽しめる津島の街並」「大都市・地域で働く場を」「津島のニューホリデー」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通が便利な場所に住み、名古屋や東京に通勤して働くとともに、古い街並みが残る場所でクリエイティブな仕事を行う。</li> <li>大型ショッピングモールと冒険遊び場や公園などを組み合わせて新しい休日を提案</li> <li>津島らしい街並を活かして3世代で訪れたいくなるおしゃれなカフェやレストランを整備</li> </ul>
<p><b>B</b> グループ</p>	<p><b>「市民による市民のための津島」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水辺と地域と私と庭と。便利さ以上に住みやすさを大切にする。</li> <li>自然とふれあいながら、家族と楽しむ場が必要。そして、安心・安全の地域を目指す。</li> <li>農作業や健康づくり、子育てなどを通じて地域の人たちとの交流を一番に考える。</li> </ul>
<p><b>C</b> グループ</p>	<p><b>「都会と田舎が共存するまち」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>猫も人も、古い街並みがのこる地域で触れ合えるまち</li> <li>自然のなかで、くつろいだりスポーツを楽しんだりして暮らす</li> <li>地域のために人を喜ばせる仕事で働くことで地域を明るくする</li> <li>庭が広くてゆったりとした環境で、近所の人と仲良く暮らす</li> </ul>
<p><b>D</b> グループ</p>	<p><b>「地域が活性化するまちづくり」「自然を大切にする町には安心して暮らせる場所がある」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者を大切にして、今の昔をつなぐ交流を行い、伝統などを受け継ぐ</li> <li>自給自足や地産地消をしながら、家族で安心して暮らせるまちにする</li> <li>子ども同士で安全に楽しく遊べる自然あふれる津島市に！</li> <li>地域とふれあう仕事、やりたい仕事で働ける津島市</li> </ul>

### ■みんなでトーク（成果発表）

各グループの成果物がまとまった後に、それぞれ5分程度で発表してもらいました。「全員参加で発表すること」をお願いしたところ、自分がとりまとめた提案部分を中心に、一人ひとりのメンバーが緊張しながらも自分の言葉で丁寧に発表してくれました。最後に、江口先生からも講評のコメントを頂きました。どのグループの提案も非常に質が高く、「都市の利便性」や「田舎の暮らしやすさ」「ゆとりのある暮らし」「温かい人間関係」「地元で働く・起業する」などの大切なキーワードが盛り込まれていることなどを評価して頂きました。また、事務局に対しても「近隣市町との都市間競争のなかで、津島市として活力を高めていくために、今回の子どもの提案を総合戦略に落とし込んでいくことが市の役割である」とのご指摘を頂きました。

最後に参加者全員で集合写真を撮るとともに、一緒に頑張ったグループのメンバーごとに、仕上げた成果物を囲んで写真をとって閉会となりました。



### 【今後に向けて】

参加してくれた学生さんにとっては、住み慣れた津島市の魅力や特徴を見つめ直すとともに、ふるさとである津島市と将来どのように関わっていくのか、自分自身の夢とともに考える好機になったのではないのでしょうか。そして、江口先生もご指摘のように、ここで皆さんから頂いたご提案を、これからの津島市のまちづくりの戦略に具体的に生かしていくことが事務局の責務であると考えています。今後も、引き続き本市のまちづくりに学生のみなさんのご協力をお願い致します。





【Cグループ成果物】



【Dグループ成果物】

